

RCNP 研究会報告書

タイトル	第7回日本中国原子核物理シンポジウム
日程	2009年11月9日から13日
開催場所	筑波大学、大学会館
ホームページ	http://server.px.tsukuba.ac.jp/JCNP2009/
参加者数	(国内) 100名、(国外) 30名
講演数	71
世話人(所属)	萩野浩一(東北大)、梶野敏貴(天文台)、初田哲男(東大)、宮武宇也(KEK)、中野貴志(RCNP)、野呂哲夫(九大)、大西明(京大基研)、櫻井博儀(理研)、田村裕和(東北大)、田中万博(J-PARC)、小沢顕(筑波大)

内容および成果

このシンポジウムは、日本と中国の原子核物理学分野での広範かつ、組織立った交流の必要性から計画された。第1回目のシンポジウムは1992年に東京工業大学で開催され、以後ほぼ3年おきに日本と中国の交互で開催されている。今回、筑波大学原子核グループが主催となり、シンポジウムを開催した。シンポジウムのテーマは、日本および中国で重点的に進められている研究を中心に原子核物理全般に及んでおり、今回の主なテーマは次の通りであった。不安定核の物理、宇宙元素合成、超重元素合成、ハイパー核の物理、少数核子系の物理、重イオン反応の物理、ベータ崩壊、超変形状態の物理、原子核物理の応用(AMS、核データなど)、クオークグルーオンプラズマの物理、核子構造など。

今回のシンポジウムには、中国から29名の参加者があり、国内からは主催者の予想を上回る多くの参加者があった。近年の中国の原子核物理分野の発達は目覚ましく、大型プロジェクトも進行中である。このシンポジウムを機会に、多くの研究者の交流および共同研究などの提案があった。次回は、3年後に中国の北京で、CIAEの主催により開催される予定である。